

平成27年度第5回江東区外部評価委員会

1 日 時 平成27年8月20日(木)
午前 10時 55分 開会 午後 0時 5分 閉会

2 場 所 江東区役所 7階 73会議室

3 出席者

(1) 委員

吉 武 博 通	塚 本 壽 雄
植 田 みどり	藤 枝 聡
布 施 伸 枝	宮 澤 正 泰

(2) 事務局

副区長	大 井 哲 爾
〃	海老澤 孝 史
政策経営部長	押 田 文 子
政策経営部企画課長	武 田 正 孝
政策経営部財政課長	武 越 信 昭
政策経営部計画推進担当課長(行政管理担当課長兼務)	宮 尾 英 志

4 傍聴者数 1名

5 会議次第

1. 開会
2. 議題 (1)平成27年度外部評価結果報告書(案)について
3. その他
4. 閉会

6 配付資料

- ・資料1 平成27年度外部評価結果報告書(案)について

午前 10時 55分 開会

○事務局 では、定刻前でございますけれども、おそろいでございますので、委員長、よろしければお願いいたします。

○委員長 それでは、少し早目ですけれども、第5回の江東区外部評価委員会を開会したいと思います。委員の先生方におかれましては、ご多忙のところ、また、まだまだ蒸し暑いんですけれども、ご出席いただきましてありがとうございます。本日は1名の傍聴者がいらっしゃいます。よろしくお願いいたします。

初めに、お手元の資料の確認をお願いしたいと思います。席上でございます会議次第に配付資料の記載がございますので、不足がございましたら、事務局の職員までお知らせいただきたいと思います。特によろしゅうございますでしょうか。

それでは、平成27年度外部評価結果報告書についてを議題としまして、第1回の外部評価委員会で各委員にご了承いただきました外部評価委員会の運営において、正副委員長で評価案を作成の上、各委員に提示するとされておりますことから、委員の皆様方からご提出いただきました外部評価シートに基づき、委員長の私と塚本副委員長とで調整の上、取りまとめたものでございます。直前になってメールでお送りしたことをおわびしたいと思います。

報告書につきましては、既にごらんいただいているとは思いますが、改めまして事務局よりご説明をいただきたいと思います。

○事務局 それでは、私のほうから外部評価報告書（案）についてご説明をさせていただきます。少々お時間をいただきますけれども、あらかじめご承知おきください。

まず、案をまとめるに当たりまして、委員会前日ではありましたが昨日委員の方々に送らせていただきました。短い時間でありましたが、ご協力いただきましてありがとうございます。また、今回報告書をまとめるに当たりまして、吉武委員長には丁寧かつ細かくご確認をいただきまして、文章をまとめていただきました。重ねてお礼を申し上げます。

それでは、内容について概略を説明させていただきます。まず表紙をおめくりいただきますと、「平成27年度外部評価について」ということで、委員長の文章を掲載させていただきます。

主な点について申し上げますと、3行目にありますように、27年度から新たな構成による委員会を設置したこと、2段落目は新たに外部評価モニター制度を設けたことを記載してございます。また、3段落目の冒頭にありますように、「外部評価委員会」と「外部評

価モニター」の2者に「政策経営部」と「主管部課・関係部課」を加えた4者が、何のための評価であるか、その基本を十分に共有した上で、それぞれの役割を果たしながら、全体で新たな行政評価システムを築き上げていくことが大切だとまとめていただいております。

さらに、6段落目にありますように、外部評価を含む行政評価の目的は、区民福祉の向上のための長期計画の着実な推進、確実な区政運営の実現にあるのであって、「評価のための評価」になってはならないこと、また次の段落では、今後とも行政評価制度の適切な運用と行政評価のあり方について不断の見直しに努めるとともに、外部評価結果を長期計画の着実な推進に有効に役立ててほしいとまとめていただいているところでございます。

次に、1ページをごらんいただきたいと思います。1の外部評価委員会についてでございますが、2ページ以下で外部評価委員会の概要についてまとめてございます。1の外部評価委員会の目的、2、評価結果の取扱い、3、外部評価委員会の構成につきましては、お読みいただければおわかりかと思っておりますので割愛をさせていただきます。

なお、25年度までは公募区民を委員としてございましたけれども、今回からは4にありますように、外部評価モニターの制度を導入してございます。これはそちらに記載されているとおり、区民2,000人を無作為抽出し、この中で参加を希望する方に外部評価モニターとして委員会を傍聴していただきました。実際には103人の申し込みがあり、79人のご参加をいただいたところでございます。モニターの方の応募状況ですとか、モニターの方の評価につきましては、72ページ以降にそれぞれ掲載をさせていただきますので、後ほどご確認をいただければと思います。

次に、5、評価対象ですが、3行目にございますとおり、3年間で全施策を評価することとし、27年度は記載の12施策を対象としてございます。また、6の評価方法ですが、資料に記載のとおり、外部評価委員は、一次評価として、施策の主管部が事前に作成する「施策評価シート」、「行政評価（二次評価）結果への取り組み状況説明シート」等に基づきヒアリングを行った上で、「外部評価モニター」の意見等も参考にしながら、今後の施策の方向性等について評価を行ってございます。また、評価の視点につきましては、資料の下段に記載のとおりとなっております。

4ページには、7、実施方法・日程等をまとめております。表に記載してございますが、6月29日にガイダンス等を行った後、2つの班に分かれまして、それぞれ評価を行っていただきました。また、それぞれに参加したモニター数、傍聴者数につきましては、記載の

とおりでございます。

以上が外部評価委員会の概要でございます。

次に、5ページに総評となっております。この部分につきましても、吉武委員長にまとめていただいているところでございます。

まず、冒頭の全体的な評価といたしましては、6行目にありますように、本年度の評価対象となった施策については、「いずれの施策も計画達成に向けて真摯な取り組みが行われており、概ね着実に推進されつつある」と評価をいただいております。その上で大きく

(1) 施策別評価の総括、(2) 計画推進に向けた課題、(3) 実効性ある評価に向けての3点に整理していただいております。

まず、(1) 施策別評価の総括におきましては、2行目にございますが、S、A、B、Cの評定だけで計画の実施状況の評価することは難しいが、あえて評定のみをもとに整理すると次のとおりになるとして、全委員、全項目がA評価となっているもの、その下のA以上が過半数を占めているもの、そして3段落目のBがAを上回るものの3つに区分して分析をしていただいております。

しかし、その下、1行あいたところでございますけれども、これらの結果は取り組みの優劣を意味するものではないとし、次の段落にありますように、評定に差が生じるのは施策自体の性格による部分が大きいと分析をされてございます。委員長からは、区民に身近な具体性のある施策のほうが評価が高く、包括的で国・都・民間などの役割分担が大事な施策の評価がやや厳し目に出ているというご意見も別途いただいているところでございます。

次に、7ページの(2) 計画推進に向けた課題についてでございます。まず、①施策展開の構造化ですが、ここでは1段落目の冒頭でございますように、施策が目指す姿とそれを実現するための具体的な取り組みとの関係に曖昧さを感じる事例が見受けられたこと、また、2段落目にありますように、評価の過程において、「コミュニティ」、「協働」など、施策における定義が曖昧と思われる事例があったとご指摘をいただいたところでございます。こうした点につきましては、9ページ以降の個別の施策の評価におきましても、各委員のコメントとして記載をされている部分がございます。

次に、②成果指標と目標値の設定でございます。冒頭にありますとおり、施策の成果を検証するに当たり、長期計画に掲げている指標だけでは必ずしも十分に施策の成果を検証できない事例も散見されるとし、その2行下に、必要に応じて実態を的確にあらわし、施

策の達成状況をより端的に示すアウトカム指標を設定する必要があるとご指摘をいただいております。

また、次の段落では、目標値を設定していない指標もあり、施策の達成状況という点から評価することが困難な施策もあったとされております。

③の区民ニーズの適切な把握では、冒頭に適切に把握しようとする区の姿勢が見られたとする一方、その2行下には、引き続ききめ細かい区民ニーズの把握が必要としてございます。

8ページ、④コストと負担のあり方では、ライフサイクルコストの負担のあり方、また、区民・事業者・行政の「役割分担」の観点から、負担のあり方についてご指摘をいただいているところでございます。

⑤他部署との積極的な連携につきましては、3行目にごございますけれども、施策実現のために複数の組織による総合的な関与が必要な施策も存在するとした上で、最後に、連携によりそれぞれの施策目標の達成に近づいていくものと考えたとまとめていただいております。

最後に、(3) 実効性ある評価に向けてでございます。2段落目の2行目にごございますが、外部評価で重要なこととして、掲げた施策の目的は何か、そのために具体的に何をなすべきか、何をもち進んでいると判断し、何を最終的な成果とするかが施策の推進にかかわる全ての職員の間で共有されていることであり、評価はそれを確認する最良の機会としてございます。その上で、最後にごございますように、「評価」を区政運営のさらなる高度化に結びつけていただくことを期待したいとまとめていただいているところでございます。

以上が総評となっております。

9ページ以降は、各施策の評価を掲載してございます。9ページには評価基準を掲載してございます。

10ページ、施策の1でご説明をさせていただきますと、10ページ、11ページが主管部が作成いたします一次評価である施策シートとなっております。

なお、1点おわびがございます。この部分の5、施策コストの状況のうち人件費の部分で、10万以下の部分で誤りがございました。今回のものが正しくなっているものでございます。おわびして訂正をさせていただきます。

また、12ページには26年度の最終的な行政評価結果である二次評価と、13ページには、それに対する取り組み状況についてまとめてございます。以上のシートを活用しまして、

外部評価委員と区職員との間で質疑応答を行ってございます。

その結果、外部評価委員の評価が14ページとなっております。網かけの部分をごらんいただきますと、①の施策の目標に対し、成果はあがっているかから、④の施策の総合評価まで4点にまとめてございます。評価につきましては、S、A、B、Cの4段階となっているところでございます。また、欄外に外部評価モニターの評価をまとめてございます。こちらの詳細については、最後の4の資料のところそれぞれ内容を記載しているところでございます。

また、表の中に「エ」、「オ」、「カ」などとありますが、こちらは委員の方が6人いらっしゃると思いますので、「ア」から「カ」で表記をさせていただいているところでございます。

以上が施策評価となっております。

最後に、71ページ以降の資料となっております。72ページには外部評価モニターについてまとめているところでございます。外部評価モニターの役割ですとか、応募状況と抽選結果、また、それぞれの出席状況について記載をしているところでございます。そして、73ページ以降につきましては、それぞれの施策について評価とその評価理由を掲載しているところでございます。

85ページには指標の現状値の推移をまとめてございます。

そして、89ページが外部評価委員会の設置要綱となっております。

以上が報告書（案）の概要でございます。説明は以上でございます。

○委員長 非常に要領のいい説明、ありがとうございました。今、ご説明いただいたとおり、実は事務局のほうから私と副委員長のところに、先週でしたか、委員長挨拶の部分と総評も含めたところで全体を見てほしいという話がありました。手を入れるところは挨拶のところと総評のところしかないわけではありますが、大変よくできておまして、特に手を入れる必要はないのかなと初めは思ったんですが、先週の土日ぐらいから少しずつしっかりもう一回見直しました。挨拶のところはほとんどいただいたとおりなんですけれども、もともと挨拶文章のところは、我々のことを学識経験者とか専門家が集まったとか書いてあって、それは評価委員会側で書くのはちょっと変だなと思いましたものですから、少しそこはマイルドに書かせていただきまして手直しをさせていただきましたが、6、7、8ページの総評のところ、ひとつ、今日のポイントかと思います。

とてもよくまとめていただいているのが、7ページの、私のほうで(2)を付しております。

すけれども、①から⑤番のところまでは全く事務局の案のとおりでございまして、6人の委員の皆さんがそれぞれの形でヒアリングのときに話をして、コメントをいただいたことを非常にうまくまとめていただいております、これはこのまま生かしたほうがいいかなということで、実はここがメインだったわけです。

でも、やっぱり、せっかくS、A、B、Cがついているので、何かそれも含めて、我々定量化しろとかいろいろ言っているんで、もうちょっと何か具体的に言ったほうがいいのかなと。

でも、あんまりS、A、B、Cで評価をしてしまうと、皆さん頑張っておられるのに、この施策はうまくやっていて、この施策はうまくやっていないと差をつけるのもいがかかということで、実はそこで悩みました。それで、今、事務局からご説明いただいたように、6ページの最初のリードの部分といいますか、見出しに鍵括弧で、「いずれの施策も計画達成に向けて真摯な取り組みが行われており、概ね着実に推進されつつある」というふうには、ちょっとこれはご意見いただきたいところなんです、まず我々はポジティブに、積極的にプロの取り組みを評価しましょうということをここで掲げさせていただいた上で、S、A、B、Cだけで評価するのは非常に危険ではあるんですが、それだけで見てみると、あるいは外部評価モニターの方々のつけられたスコアを見てみると、大きく分けると、先ほどの繰り返しになりますが、施策1と施策3と施策6と施策34というのは、環境問題とといいますか、環境とかそういったものと、それから保育と事故・犯罪という、ある意味では身近な問題でありまして、ここは全委員が全項目にAをつけているということでありました。

その次のゾーンになりますと、少しずつBが、1つとか2つとか、あるいは3つ、4つとか出てくるところがありまして、少し委員の中でも見方が分かれてくるところが、この次のカテゴリーになりまして、確かな学力のところと、地域の人材を生かした青少年の健全育成、それから区内中小企業、コミュニティ、計画的なまちづくり、それから区民の参画、協働と開かれた区政の実現ということで、この辺になると少し抽象的といいますか、施策自体がかなり包括的な要素が出てくるのかなという気がいたしました。

施策22と25は、3名の委員の方が4つのカテゴリーで評価されますので、全部で12個あるんですが、よく数えてみると、7個以上Bがあるのが実はこの2つであります。2つとも私も担当しておりませんが、多分、国とか都とか、あるいは民間団体とか、そこどういふ分担をしていくのかということがもう少しはっきりしなければいけないんじ

やないかとか、やはり非常に大きなテーマ、福祉というのも非常に大きいですし、健康づくりというのも非常に大きなテーマなので、そういった包括的な大きなテーマをどういうふうに分担してやるのかというところが難しいなということで、この辺が評価が分かれたんだろうと。その後ろに、もう一回念を入れて、取り組みの優劣を意味するわけじゃなく、主管部の部長の顔とかを思い浮かべると、そんなことではないんだということをぜひ伝えていただいて、決してAランク、Bランク、Cランクにしているわけではないと。やっぱり施策自体の立て方が問題だということではなくて、そこ自体が取り組みの難しさと絡んできているんだろうと。ある意味ではそれが、実は今回の評価をしたときの一番の本質的な問題で、どういうふうに施策を立てていって、それをどう具体化していくかということにより明確にすることが大事で、施策の立て方というのが実はとても大事なんだなということ、委員あるいは区の皆さんと一緒に共有するという意味で、こんな表現をさせていただいたということでございます。7ページのところはほんとうによくまとめていただいたので、このまま使わせていただきました。

最後に、実効性ある評価に向けてということございまして、ご説明いただいている、何でこんなに評価させられるんだろうと思っているような顔つきの方もおられまして、それはそうだよなと、このくそ暑いときにこんなことさせられてと思うだろうと。だけど、そういうときにお互いが気づいていくことがとても大事なんだということで、特に職員の皆さん方に対するメッセージを最後に入れさせていただいたということでまとめさせていただきました。

したがって、事務局がよくまとめていただいたものに私がちょっとお化粧をさせていただいたという程度でございますが、ここからは委員の先生方から、まとめ方としてこれでいいのか、あるいはご意見とか今後に向けて何かご提案とかあれば、率直におっしゃっていただければと思います。

いかがでございましょうか。

○委員 ありがとうございます。大変配慮の行き届いた、まさに評価をお受けになる、区長さんの言葉によりますと、一生懸命仕事をなさっている職員の方々にどう使うかということをご配慮いただいて、大変いい形の報告書ができたと思っております。私自身もS、A、B、Cというのは、この外部評価以外でも、私が勉強している各自治体のさまざまな行政評価でも、最後にS、A、B、Cに丸をつけろというのがあるんですけども、そのこと自体は大変無理があるという面が、ほかのところの関係でも感じております。

その意味では、このような形でお書きいただいている、実は22番、25番というのは私たちのグループのところですが、22番、健康づくり、25番、総合的な福祉の推進、やはり委員長からご解説がありましたように、健康づくりのほうは明らかに数字ということに基づきに置くと、できが悪いことになってしまうんです。ただ、そのこと自体は、結局あんな話だろうみたいなことになるわけですので、もともと私の評価の文言でもらちが明かないところであると書いてあるわけです。

それから、総合的な福祉の推進、これは数字というより、政策が非常に急速に、国のお声がかかりで、さまざま、いろんな取り組みが展開しているということになりますので、そういうところをどうやっているんだ、説明しろと言われても、今やっていますという話になります。そういう意味では、評価という観点から言うと、難しいことはわかっているけれども、それは大変だねという意味で、オーケーだよということにならないというのが私の感じでした。そのような点も、この点でお示しいただけたというところで、ほんとのところ、私は最後、報告書をどうまとめるのかなと気になっておりましたが、なるほど、こうなのかと感じている次第であります。

あと、少し感想を申し上げさせていただくと、委員長からも先ほどお話がありましたように、区長さんから我々に対するお言葉で私が感じたのは、職員が一生懸命仕事をしてくれていると、そのこと自体については区長自身としても感謝をしておるのであるが、外部評価委員の皆さんに、職員の皆さんがそれでもなお気がつかないところを示してほしいというお言葉でありました。私も大変重たく受けとめたところですが、結局のところ、このような報告書の取りまとめをしていただいたので、職員の皆さんには、これ、ほんとはよく読んでいただければいいと。

それで、S、A、B、Cは私も、委員長がご懸念なされたように、あまり重点を置かずに、何が書いてあるか。特に、私もこの中に入れていただいて、最終的にはヒアリング、外部評価モニターの皆さんのご質問に対する職員の皆さんのお答えというものをベースにしながら翌日評価をつくるわけですが、そのときに、我々自身も区民の皆さんが何を考えおられるか全く知りませんので、今回の取り組みで外部評価の委員の、モニターの方に入っていただいたということ自体、おそらく、まず職員の皆さんは、この資料についている外部評価のモニターの皆さんが何を言っているかは多分ごらんになりたいと思います。絶対ごらんになるべきだと思うんですが、これは実は、私ども外部評価委員が評価をして、私は先にそれを見たわけじゃありませんけれども、でも、自分の考えていることというの

が、結局よそから来た人間のひとりよがりの判断になっていないかという点を確認する意味でも大変役立ちました。

その意味で、この外部評価モニターの制度を取り入れられたと、新たにそういう仕組みをされたということも大変評価の仕組みの意味と、それから評価委員を助けるという意味、それから職員の方に、委員長もおっしゃいましたように、気がつかないところ、私が委員の一人としてご指摘できたかどうかわかりませんが、気づきを、職員の皆さんがなさる材料が今年の外部評価報告書にはたくさん入っていると思います。そのようなことも含めて、私はほんとに大変短い期間の作業、ヒアリング等の作業でしたけれども、この区政の総合計画をよくしていくと、その実効をよくしていくという意味で、大変よい文章、情報ができ上がったと考えているところでございます。

多少長くなりましたが、私の感想です。

○委員長　いえいえ。貴重なご意見どうもありがとうございました。じゃあ、こういう感じで少しご意見を。もし何か修正したほうがいいところがあれば遠慮なく言ってください。

○委員　私もほとんど感想を述べることになりますので。

○委員長　はい、どうぞ。

○委員　まず、総評の内容につきましては、委員長がおっしゃいましたように、ほんとうに的確にまとめていただいている特段異論はございません。このままでよろしいのではないかと考えております。その上で感想を2点ほど申し上げたいと思います。

まず1点目は、委員長のご挨拶のところにもあったんですが、外部評価の仕組みです。この目的はいろいろあるかとは思いますが、個人的にずっと理解している外部評価委員会の目的の一つは、やはり、これまでなかった区側と区民の皆さんとの間をつなぐ、コミュニケーションの新しいチャンネルというような意味が。ですので、委員長、副委員長がおっしゃっているようにS、A、B、Cが直ちに問題になるのではないというような、その辺にもつながってくるかとは思いますが、そういう意味で言うと、私はこの委員の皆さんの中で、一応過去に外部評価を経験した者の立場から申し上げますと、区の皆さんの説明の質が非常に上がってきているという印象を、過去に比べて思いました。

ですので、そういう意味で言うと、コミュニケーションの新しいチャンネルとしての位置づけというものが回を経るごとに上がってきているのではないかという印象は率直に思ったところです。

委員がおっしゃったように、そうなっている1つの要因として、やはり今回、外部

評価モニターの仕組みを取り入れたというところが非常に大きいと思っております。少し具体的に申し上げますと、ともすると、委員の側からの質問ですとか、それに対する区の皆さんからのご説明というのは、半ば内容がわかっていたりするようになると専門用語を少し使ってみたりですとか、あるいは大事なところを端折って質疑をしたりとかいうことになりがちなんですけれども、今回外部評価モニターの皆さんが同席くださったことで、これは私自身気がついたことなんです、それではいけないんだと。やはりきちんとわかりやすい言葉で、自分がわかっていることでもあえて前提を少し確認したりですとか、そういうことを質疑の中に取り入れていくというようなことが意識づけられるようになりまして、結果的にそのことが全体としてよりわかりやすいものに、以前と比べるとなっているのではないかなと思います。ですので、この区民モニターの仕組みを取り入れたという部分については、書くか書かないかどうかは別にして、今回の平成27年度の外部評価委員会としては非常に大きな意味があったのではないかとということを1つ感想として申し上げたいと思います。

それからもう一つは、やや内容に係るところなんですけれども、委員がおっしゃられたとおり、評価が、BがAをわずかだが上回るものとして施策22、25というのが挙がっていました。これは私も参加させていただいた班だったんですけれども、要因の全部ではないんですが、この2つの施策を見て思い出したのが、2つの施策とも、その施策の推進に当たって共助の考え方を取り入れるんだということを強くおっしゃるんです。

ただ一方で、もちろん施策ごとに共助の仕組みをしっかりと取り入れていこうとして、いろいろ取り組まれていくんですけれども、なかなかブレークスルーできないというところで悩まれている。そこがなかなかうまくいかないというところが、少なくとも私の印象では一部Bをつけたところの要因に係っているのではないかと。

私は評価のどこかで書いたんですけれども、これは多分、施策ごとに共助ということをして一生懸命やっているんですけれども、なかなかブレークスルーできないという全般的な問題があるので、もしほんとうに江東区さんが共助の仕組みということを、いろんな施策でやっていこうとするのであれば、まさにここの総評に書かれているように他部署との積極的な連携の中で、区政全体と区民全体の皆さんの中で共助を具体的にどう進めていくのかということを含括的に考えていくような段階に来ているのかなということ、かえって個別の施策を拝見しながら感じました。なので、そのあたりの共助ということをどう考えていくのかというのは、今回施策評価をして横並びに見たときに、1つの課題として

は明確化されたのではないかということをお個人的な印象として思いました。

以上、2点感想です。

○委員長 どうもありがとうございました。じゃ、委員、お願いします。

○委員 大変よく総評のところもお書きいただいておりますので、こちらのほうは私もこちらでと思っております。私のほうも少し感想めいたものになります。

私、今回初めて参加させていただいて、前回のを参考に見せていただいていたので、何かわりとリアルにばんとS、A、B、Cという形になっているのと、評価のコメントについても、わりと細かくそのまま載せられているので所管の方がどういうふう感じていただけるのかなというのがちょっと。なので、所管の方については、評価のA、B、Cではなくてコメントのところ、着実にやっていたところでもう少しこういう視点があればいいのではないかといいことを見ていただけるような形で伝わるといいなと思っております。

今回参加させていただいて、モニターの方が参加されているということで、先ほど委員がおっしゃったような形で、まず前提の確認ということで、班長がわりとこの前提はどうでしょうかということをお話を進めてくださっていましたので、その辺はわかりやすく議論は進められたという感想は持っております。

その上でなんですが、指標の話が先ほどここの中に書かれていたんですが、指標ということで、その指標をもとにして評価をしようということ考えたときに、そのわかりやすさとか、その指標に基づいて評価をしていったときに、そこが評価し切れるのかというような問題がわりと大きいなと感じました。一応評価する目安として、所管の方が目標値としてお考えになっているものなので、これが現実的にもしそぐわないのであれば、もう少し考えを微調整していく部分もあるというのが1点と、無理やり指標を設定することに対する抵抗感が少しありました。

私が評価する上で感じたのが、施策のコストのところ、決算値が速報値でも少しあると、拝見するときに、予算ベースでしかどうしても比較ができなかったものですから、何となくの数字が入っていると、これぐらいの予算を組まれて、これぐらいの進行状況なのかなというのをおあわせて拝見できたように、そこは感想として思っております。

以上です。

○委員長 よろしいですか。どうもありがとうございました。

じゃあ、委員。

○委員 報告書全体については、思っていたことをそのまますごく的確に書いていただいていると思っておりますので、内容についてはこのままで私も特に異論はございません。

その上で、幾つかヒアリングをずっとさせていただいていた中で感じていたことを少し述べさせていただきたいと思うんですけども、正直私はS、A、B、Cをつけるときに、なかなかSがつけづらかったというか、Bをつけるときもすごく悩んで、どうしてもAが多くなってしまったところがあるんです。そういう意味でS、A、B、Cの部分が、どうしてもひとり歩きする部分はあると思うんですけども、それ自体が何か意味があるということではなくて、それよりも、今、委員がおっしゃったように、コメントの部分できちんと見ていただきたいなというところが私自身もあります。

それは私自身が評価報告書を書かせていただく中で思っていたのは、やはり今回やった外部評価がきちんと改善につながっていただきたいなというところがあったので、今回すごく皆さんしっかりと現状とか、区民の方のニーズを把握されながら取り組まれていて、委員長が書いてくださっているように、ほんとうに真摯に取り組まれているということはヒアリングを通してすごく感じることができましたので、そのことが次の改善にどう結びつくのか、結びつけていただきたいなという思いを込めてコメントを書かせていただいていますので、その部分をぜひ読んでいただきたいなということで書かせていただいたところがありますので、ぜひコメントとか文章のほうをしっかりと読んでいただきたいというのが1点目です。

それから、2点目なんですけれども、今、委員がおっしゃったことと少し関係するかと思うんですが、私自身がヒアリングをさせていただいて、評価をする際に、4の施策実現に関する指標が幾つかあるんですけども、それだけではなかなか施策全体を評価できないですし、なかなか判断をするときに評価しづらかったところがあるので、目指そうとしている姿をきちんと的確に、多角的に評価できるような指標の設定がないと、この施策全体の進捗状況、状況がどうだというふうなことを把握する指標としてはいいかもしれないんですけども、いわゆる私たちのような外部の者が見るときの指標としては、ちょっと不十分だったのかなというところがあるので、指標の設定を少し考えていくと、もう少し外部評価が改善のための評価につながるのかなというところが、実際させていただいて感じたところです。

そういう意味で、目標として今後目指そうとしている姿というのは文章では書いてあるんですけども、それを具体的に、やはり評価可能な指標の設定をするであるとか、施策

全体を包括的に図れるようなということと、施策を構造的に見ることができるような指標の設定であるとか、あとは、多分31年度という長期的なスパンでの指標の設定なんですけれども、もう少し短期的なサイクルで見ることができるような指標、短期的な指標の設定であるとか、全体的な大きなPDCAの流れの中で、短期的にきちんと進捗状況を管理しながら、改善に結びつけていく指標の設定という形でのものがあると、こういう外部評価した結果が生きてくるのかなということがあるので、今回の外部評価で出されたことをどういうふうに次年度の施策の中で反映していくのかという部分の見通しがちょっと今回は見えなかったもので、その部分が見えてくると、より外部評価が生きてくるのかなということを感じたのが2点目。

それから3点目なんですけれども、総評のところにも書いていただいていたかと思いますが、私が評価した中では、コミュニティとか協働って、やはり言葉の定義がなかなか難しかったことがあるので、具体的に言葉の定義をすとか、私が担当させていただいた中では、民間の活用であるとか連携という言葉もかなり出てきていると思うんですけれども、じゃあ、それはどういうことを意味するのかとか、そこで目指そうとしている姿は何なのかということと同時に、じゃあ、それを誰がコーディネートしてやるのかとか、あとは、それはなぜ必要なのかをきちんと区民の方に説明をする。そのことありきではなくて、いやいや、それはいいことだからやるというだけではなくて、江東区がこういう状況だから、江東区ではこういうふうなこととして定義して、だからこういうふうにするんだという江東区の事情に合った形できちんと説明してということをやっていただくことが、まず大前提として必要なんではないかと。一般論ではなくて江東区としての説明をしていただけると、区民の方に理解していただけるのかなと思いました。

そういう意味で、区としてなぜこれを民間でやるのかということでの区の役割を、なぜ区がやらなきゃいけないのか、なぜ区がやらないのかをぜひ明確にしながらやっていただくと、施策の中での区の役割とかコスト面のこともかなり整備できるのではないかなと思ったのが感じた3点です。

以上です。

○委員長 どうもありがとうございました。では、最後お願いいたします。

○委員 私、この外部評価委員を受けるに当たり、ほかの先生方と違い自治体の職員ですので、それでもいいんですかということの中で、違う自治体の方ということで外部評価委員に参加させていただきました。そういった意味で、若干視点が違う部分が当然出てきて

はおります。

まず、この総評については、委員長が非常によくまとめていただいておりますので、私もこの部分については問題ないと考えております。

まず評価、今回のシステム的なものです。外部のモニターさんを入れたという中においては、かなりコスト的に手間暇かかるものですがけれども、個別評価をするにおいて現状考えられている中では、最善の方法なのかなとは思っております。ただ、私のほうの自治体でも行政評価をどうしたらいいかと非常に何年も手探り状態の中で、俗に言われる事業仕分けもいたしましたし、民間のコンサルを得た中の業務分析をしたりとか、個別のこのような事業の行政評価というものもかなりしておりますけれども、どうしても評価のための評価的な仕事になってしましまして、その評価をよくするための指標になってしまったりとか、内部ではそんなようなこともあって、実際、評価というのは難しいことがあります。そういった中で、現状与えられた中での最善のものになっているのかなと思っております。

感想といたしましては、これからの自治体は全てなんですけれども、限られた財源の中で、区あるいは自治体の事業をどう取舍選択を、選択と集中をしていかなきゃいけないかということが求められているときに、なかなか個々の事業を積み上げた中で、私の担当が公会計という形で、どうしてもそういった決算、予算的なものになりますから、そういったいい事業、悪い事業を取捨選択する中で仮に積み上げて、最後はコスト、お金になりますから、積み上げ形式で言うとどうしても予算額が足りないというのが現状にあります。そういった中で、現状では限られた財源から、メニューですか、いろいろなものを落とし込んでいく、選んでいくという逆のほうでやっていく部分がありますので、そういったときには個々の事業というか、全体の中で今後どう判断をしていくか。要するに個々の評価点はありますけれども、その事業がすごく必要だったら最後に全体的に2を掛けるとか、それほどでもないものだったら最後に0.5を掛けるとか、おそらく全体のときに予算化するときには、非常に工夫が必要かなとは思っておりますけれども、ただそれをどうしたらいいかというのは私たちにもわからない部分があります。

今後言えることといたしましては、やはり現金の支出だけではなくて発生主義的な決算も求められておりますので、そういった民間、当然、減価償却なりそういった経費を含めた中で、長期的なコスト情報の提供もする中で選んでいく時代になるのかなとは思っております。

簡単ですがけれども感想ということで。

○委員長 どうもありがとうございました。全体を聞かれて、何かご感想ってありますか。

○委員 特にありませんけれども、指標の点については、やはり総合計画からおろしているという点で、総合計画の進捗を見るということと、それから職員の皆さんが区民の皆さんの目から見てやるべきことをやっているのかという点について言うと、実は必ずしも合わない面がありますので、そこが指標の点でなかなかそぐわないものが出てきている点にあると思います。

両方うまくやるのはなかなか難しいかと思うんですが、この仕組みの中で区民の視点となると、我々のグループでの質問もありました。結局、大気の状況はよくなっているんですかという話は、必ずしも目標との関係で議論しているので出てこないんです。ですので、評価というのが区民に対するアカウンタビリティという面もあるし、職員の方の業務の改善という面も、もちろん最終的にはつながりますけれども、日々のお話ですから、そのような点から言うと、指標というものについては、例えば、この指標の中には目標と書いてあるけれども、一部ニーズを示している指標もあつたりするんです。その意味でよくある知恵としては、委員は、それもこなしてもっと違うことをお考えかもしれませんけれども、まさに職員の方のお仕事のモニタリングのための指標と、それからアウトカムという言葉で出てくる指標というのを、この評価の仕組みの中には両方用意する必要はないんですけれども、そういうものを両方用意していくことができると、多分、外部評価モニターの皆さんにも、仕事をこのように、その意味で進んでいますよということが上手に説明ができることがあるのかもしれないと思います。

私もやはり指標というものについては、これはあることが必要ですけれども、ほんとうに評価をすることになりますと、まさにヒアリングをさせていただいて、委員もご質問がありましたように、何のためにやっているか、それは江東区としてどうなのかということをお聞きしていて、その中で気がついていくことのほうが、指標が要らないという意味ではありませんけれども、そちらのプロセスがよほど多分重要なんだと思います。

事業仕分けは下手にやると乱暴なことになりますけれども、これもやはり対話の中で何が求められているのかということ、傍聴者も参加いただいて仕分けが行われていくという意味で、自治体全体としての政策の理解、最終的には、その中で委員がおっしゃったように、プライオリティーづけを区長さんをはじめとしてやっていかなければならないんですが、その前提づくりになるわけです。委員は、2を掛けたり0.5掛けするんだと思いますが、そのことは、やるに当たっても必要なんです。

そのような意味で、何のためにやるかという点で何を重点にしていくか。今回の場合は外部評価モニターの方を入れたという中で、各委員から評価がありましたように新しい形でのコミュニケーションができたこととなります。そうなりますと、この指標をがたがたいじるというのはなかなか制度上困難かもしれません。用意するものとしては、申し上げたような評価の目標の達成という意味ではなく、どのように進んでいるかというモニタリングの数字ですと、始めたときの現状値からベースラインを見て、どのように改善しているのかを区民に説明していくという指標も用意されると、この仕組み自体が、来年度以降も続けられるとすれば、さらによいコミュニケーションの手段になるんじゃないかと、そういう感想を今皆さんのご議論をお聞きして思ったところです。

○委員長 ありがとうございます。何かほかにつけ加えることはございますか。よろしいでしょうか。それでは、総評のところも含めて、挨拶もそうですけれども、つきましては、6名の委員の総意だということで、これでまとめさせていただきたいと思います。全体もこれでまとめさせていただいて、特に修正箇所はなしということでまとめたいと思います。

それから、今、ほんとうに貴重なご意見もいただきまして、まず外部評価モニターを入れられたのはとてもよかったし、あるいは、それを含めてこういう外部評価委員会を1年の一旦休止の後でまた立ち上げられる。そして、なおかつ外部評価モニターという仕組みを入れられたということで、これは、委員が言われたように1つの区民の皆さんとのチャンネルという意味でも非常によかったということでもありますから、仕組み自体はほんとうに工夫されておられるということで、我々もまた、この仕組みの上に乗っかって来年以降も首にならない限り続けていくことになるのかもしれない。

それからあと、幾つか指標の問題がありましたので、これにつきましては無理のない範囲ですけれども、やはり指標というものを、今まではとにかくやたらと指標化しなければいけないんだということであったわけですが、それも実は大事なんだけど、これは委員がおっしゃったように最終的なアウトカムとしての指標と、それから、もうちょっと手前の進捗管理としての指標だとか、指標そのものを決して無理することなしに、どういう形で見ると、どういう位置づけの指標なのかということをもう一回はっきりさせていくというのは、来年の評価に向けて必要なことかもしれないので、ぜひ、そのあたりは工夫していただきたいと思います。

それから全体的に、僕もちょっと申し上げたんですけれども、協働とか、もう一つの班

では、共助、コミュニティということがキーワードになったわけです。何となく、聞くといいわけです。いいなと思った瞬間に思考停止に陥って、いいことをやろうと、こういうふうになるんですけども、実際、やはりそれが本質的にどういう意味を持つのかということをしちんと理解していくし、それから、先ほど委員がおっしゃったように、もうリソースは限られているわけですから、ほんとうに究極のマネジメントというのは限られたリソースをどう配分していくかという、まさに選択と集中、あるいは、捨てるものを決めていかなければいけないということになってきますので、そういったことを、今は一つ一つの施策を我々丁寧に見ましたけれども、そういう全体的な視点も考えていかなければいけないということなんだろうと思います。

そういう意味で、各委員からもご指摘があったようにS、A、B、Cではなくて、それぞれの評価の「外部評価委員会による評価」という欄が各ページの最後のところにつけておられますので、これを一言一句、ぜひ担当の職員の皆さんに読んでいただいて、私も改めてもう一つの班のを読ませていただいて、結構面白い深い、なるほどと思ったのがたくさん書かれていましたので、ぜひ、その言葉を一つ一つかみしめて読んでいただいて、いい意味で気づいていただきたいです。多分、これだけ複雑な世の中になってきますと、私は会社もそうだと思うし、大学もそうだと思うし、自治体もそうだと思うんですけども、より多くの職員や構成員が、深く考え抜いて、そして、根気強く実行したところが勝つと思っていて、やはり行政もそうだし、大学とか学校もそうなんですけれども、思いついたようにして、改革というのをやって、また、何カ月か、あるいは何年かするともうやめてしまうんです。

しかし、よく言いますけれども、東レの炭素繊維というのはご存じのとおり世界のシェアのかなりを占めているわけですが、私が理解している限り、もう40年から50年ぐらい前から東レはカーボンファイバーをやっているんです。物にならないところからずっとやっけていくんです。やはり、ほんとうに強い組織というのは根気強いんです。だから、当たり前のことを根気強く徹底してやっけていくことと、それから、一人一人の職員なり社員なり構成員が深くやはり考え抜くという、トヨタ自動車が「5つのなぜ」という、5回のなぜを問うというのは聞かれたことがあると思いますが、なぜ、なぜ、なぜって、1回なぜを聞いたぐらいではほんとうの原因にはたどり着かないよねと。5回なぜを繰り返せば、ほんとうの正真正銘の原因にたどり着くと。そこで対策を打って初めていい車ができるんだということがトヨタの「5つのなぜ」とか。

あるいは、トヨタというのは、「よい品（しな）よい考（かんがえ）」という言葉がありまして、「よい品」というのはまさに「品」と書くんですが、「よい考」というのは送り仮名がないんです。「え」がなくて「よい考」と書くんです。「よい品」と「よい考」と書くんですが、とてもいい言葉で、やはり世界での売上が26兆円ぐらいですか、利益だけで2兆数千億円と巨大な会社をつくり上げたのは、多分、「よい品（しな）よい考（かんがえ）」です。つまりいい車をつくるというのはいい考えがあつて、だから、一人一人の職員がよい考え方を持つという。その考え方をどう徹底させるかというのが、多分、運営の一番肝になるところだと思うので、そういった機会にこれをしていただければよろしいかなと思います。

むしろ、私たちとしては、非常にやりやすい仕事をさせていただいたということで、これは部長以下事務局皆さん、あるいは関係部署の皆さんにお礼を申し上げなければいかならうと思っておりますので、ほんとうに今回、一番頑張られたのは事務局の皆さんだというふうに、心から感謝を申し上げたいと思います。

最後に少し、来年もう一回やるわけですがけれども、来年、ここだけは何か改善したほうがいいことがあれば、今のことで大体大きなところはいただいたんですけども、この辺は改善したほうがいいんじゃないかというのがあったらいかがでしょうか。時間配分のこともありますけれども、まず外部評価モニターはああいう形でむしろいい、積極的に評価をしていただいて、最後に15分ぐらいでしたがご意見をいただくこともありました。あれもとてもよかったと私は思っておりますので、ああいうやり方についてはこのまま続けさせていただくということで、大きな進め方としてはどうでしょうか。来年以降、何かお気づきの点がございませうでしょうか。率直なところお話しいただければと思います。

○委員 委員長、よろしいでしょうか。グループの司会をやっているときに外部評価モニターからもその点の言及があつたんですが、私はむしろ評価より、外部評価モニターの方がおられる中で、このせつかくの取り組みを、外部評価モニターの皆さんにいいことやっていると見てもらうために何が必要かということにむしろ気がいってございまして、司会者としてしか仕事していなかったような気もいたすのですが。そのときに外部評価モニターから言及があつたんですが、結局、外部評価モニターの皆さんも3枚紙ぐらいのものをもらって、それを見ながらご説明を聞いていかれるわけですが、やはり住民の方との関係では、結局、総合計画の施策体系の中で、個々の施策がどう位置づけられて、その下にどのような事業があるんだという一覧表のようなものを別途つくって配っていただくと、

かなり、私もその点おわかりにならないと話が混乱するなど。せっかく何か貢献しようと考えて出てきていただいた外部評価モニターの皆さんの時間も、その意味でほんとうに言いたいことに集中できるかなと思いましたので、外部評価モニターの皆さんがわかりやすいような施策の、その意味での目指す姿の上に総合計画上の大きな目標があるわけですが、その意味は体系図なんですけれども、その一覧表を用意していただくと議論が相当進むというよりは進めやすかったなど、司会というかコーディネーターとしてはその点を感じました。

○委員長 ありがとうございます。その他、委員の皆さん何かありますでしょうか。来年はこういうふうに工夫したほうが良いというところは。いかがでしょうか。今、委員がおっしゃったような点は私も感じまして、何かそういう意見もあったかと思っておりますので、ぜひ、その辺はお含みいただきたいと思っております。机があったほうが良いというのもあったような気もしますけれども、物理的に厳しいからあれですが、もし会場とかで、そういうふうにメモをとりながらということがあったら、たくさんの方に入っていただくわけですから難しいのかもしれませんが、コストがかからずに会場に余裕があれば、多分、何ていうんですか、机もないところでされて、それでフラストレーションがたまってくると、かえってコメントがきつくなっちゃうんじゃないかというところがありますので、そんなところで外部評価モニターの方に対する多少の配慮もあればいいかなという気もしますけれども。でもこれはコストがかかったり、物理的な問題がございますので、無理のない範囲でよろしいかと思っておりますけれども、少し意識していただければと思います。

そのほか、来年度も同じような形で進めさせていただくということでもよろしゅうございますでしょうか。事務局からは、特にその件についてはいいですか。

○事務局 はい。

○委員長 よろしいでしょうか。あと少し時間残っておりますけれども、今年度の外部評価委員会としては、この報告書をもって一応閉めさせていただいて、また来年度今のことを踏まえて、事務局でいろいろと改善を図っていただきたいと思っております。どうもほんとうにありがとうございました。

○事務局 事務的なスケジュールだけ申し上げます。今回の報告書を踏まえまして、区として最終の評価を9月にまとめます。各部は、それに基づきまして予算要求を行います。来年度予算を含めました行政評価結果につきましては、2月にまとまりますので、委員の皆様方にはお忙しいところ恐縮でございますが、3月にもう一度お集まりをいただきまし

て、事務局より行政評価結果についてご報告をさせていただきますので、どうぞよろしく
お願いいたします。

以上でございます。

○委員長 それでは、事務局から何か。

○事務局 失礼いたします。全体、今日見ていただいた中でコメントというか、私は事務局
局を代表いたしまして、最後にきちんとご挨拶せよということで言われておりますので、
ご挨拶させていただきます。

今回、27年度の外部評価報告書をご審議いただいてほんとうにありがとうございました。
心から感謝申し上げます。今、委員長、それから副委員長、先生方からもございましたが、
1年間休みまして先生方にご参加いただき、それから外部評価モニター、4段階評価につ
いては、逆に第1回目の委員会でご指摘いただいて、なるほどと思いました。新たな試み
のもとスタートをさせていただきました。

私ども事務局、実は、今までのものを変えるというのは、非常に役人には勇気が要るん
ですけれども、どうなるかなとドキドキでございました。また、私どもふなれな点という
のもあって、各委員にもご迷惑かけたところもあったかなと反省してございます。

しかし、始まってみますと、正直申し上げますと、各班とも第1回目につきましては、
私、ちょっとドキドキしてございました。新しい委員の先生方、それから各所管が先生方
に何を申し上げるのか、それから外部評価モニターの方はどんなふうに聞いていただける
のかドキドキしてございました。ところが始まってみますと、実の的を射たご指摘を頂戴
できるし、ご配慮いただきながら所管が話しやすい形でご審議を進めていただいたと思
ってございます。

それから、今回まとめて当たりまして、今日もたくさんご意見いただきましたけれど
も、委員の皆様方の方向性とか、ご指摘の視点が非常にそろっていて、私ども実は、お聞
きして非常に理解しやすかったというのが逆に感想でございます。

今日も意見を頂戴してメモしましたけれども、とても大事なことは、何で区がその仕事
をどこまでするのかというのをきちんと短い言葉で説明できなければいけないというこ
と、常に外の刺激、意見を聞いて自問自答することが組織を抱える以上は求められている
など今回痛感をしてございます。そういうふうに言葉が残ってございますけれども、施策
的には構造化していくこと、それからやはり、コストをきちっと説明できるようにするこ
と。私ども役人のちょっとウイークポイントでございますけれども、他部署との積極的な

というふうにいただきましたけれども、全体を見て物を進める、これは私どもの事務局、政経部が心しなければいけないところを気づかされました。

それから、とてもやはりいい機会だった、どこまでできたかあれですけども、今回参加した各所管が、忙しさの中で、それを理由にして今申し上げたことができていない、まずいなということを、特に部長級なり課長級が感じてくれればありがたいなと思ってございます。

それからもう一つ、外部評価モニターの方々は何を言われて、何を書かれるかは非常に、これは多分、一番トライアルだったと思っているんですけども安心いたしました。よく聞いていただいて、それからご自分の言葉で、ご自分の経歴をおっしゃっていた人もいましたけれども、ご意見を頂戴したときには心していかなければいけないというのを、私だけではなく、多分参加した職員みんな思ったと思ってございます。

今日ご指摘いただきましたけれども、まだまだ改善すべき点、それからヒアリングしている途中で私どもも気づきました。外部評価モニターの方がわかるようにシートの説明ができないと、初めて聞く方は施策って何だという、ここについては十分留意してまいりたいと思います。必ずこのヒアリング、それから外部評価を、行政評価全体の中、来年度予算の執行管理に、全てが全てというのはなかなか難しいところがあるかもしれないんですが、いただいたポイントは所管が理解しています。私どもも十分理解いたしましたので、必ず埋め込んでお返しできるようにしたいと思ってございます。ほんとうにどうもありがとうございました。

○委員長 それでは、今、本音の率直な感想をいただきまして、どうもありがとうございました。いずれにしても事務局のおかげで無事終わったと思います。今日、予定しました議題は無事に終わりましたので、委員の皆様方につきましては、ほんとうに暑い中ヒアリングと報告書書きをやっていただきましてどうもありがとうございました。それでは今日の第5回の評価委員会については、これで終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

これは何ですか。区長にもこのままお渡しされる形になるんですね。

○事務局 はい。

○委員長 特に、委員のコメントのところはぜひ見ていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

○事務局 両副区長、何か。

- 委員長　そうですね。ぜひ、副区長何か。
- 副区長　やはり変えるということはいいことで、今までと同じやり方をしているとだめなものですから。委員は前に経験されている方でしたけれども。ただ、ちょっと僕、今日思ったんですけれども、何かこんないい評価をいただきちゃって果たしてほんとうにいいんだらうかと。
- 委員長　いやいや、中身読むと結構厳しいですから。
- 副区長　委員、さっきおっしゃっていましたが、最初に管理職の説明がどうこうって話ありましたが、私、前任の企画課長に、「要は、あれは別に管理職が進歩したわけでも何でもなくて、前の年にこうやったら次に勉強するから、単に説明がよくなっただけで、別にえらくなっただけでも何でもないんだから何かやり方変えたほうがいい、困らせたほうがいい」って言ったんだけど、ほんとうに困ったんだらうかと。管理職が困らないと大体ほとんどだめなものですから、そうじゃないと思いつに残らないものですから、ほんとうに思いつに残る評価委員会だったのかどうかというのが、それが少し心配だったかなと思うんですが。
- 委員長　いや、結構思いつに残っていると思います。それは大丈夫です。実際にはかなり厳しいやりとりがあったんです。みんな、S、A、B、Cのつけ方が難しく、結局Aになっちゃうんです。だけど、実際にコメントのところはかなり厳しいといいますか、具体的なことが指摘されていますし、やりとりはかなり熱のこもったやりとり、熱くなっていますので。
- 副区長　いや、もう思いつに残るようなものであれば全然問題ないです。
- 委員長　じゃ、来年はもっと思いつに残るようなインパクトのあるコメントをしたいと思います。
- 副区長　私としては、来年1年間終わったときにこんなはずじゃなかったなって皆さんが思ってくれるのが一番かなと思います。
- 委員長　なるほど。わかりました。副区長。
- 副区長　感想ですけれども、報告書の総評で、ほんとうに評価のポイントの課題が的確に述べられているなどと思います。

それから、自治体としては、やはり限られた「ヒト、モノ、カネ」という資源の中で、施策や事務事業の優先順位づけ、資源配分の最適化、それから、投資対効果の最適化が必要になると考えています。そういった点から、外部評価による施策の進行管理は非常に重

要だと考えています。

我々としても、施策や事務事業の企画や立案に当たっては、区民の視点を大切に、最大限努力をしているところなんですけれども、残念ながらよかれと思ってやっていることが、目的妥当性であるとか、効率性だとか効果性の点で多少ずれているというものもあると思います。今回いただきました評価につきましては、外部評価モニターのものも含めていろいろなヒントが入っていますので、今後マネジメントサイクルの中で十分分析、検証をして、施策等の改善につなげていきたいと考えています。

また、外部評価を通じての区民への説明責任、それから、職員の意識改革、こういった点も重要と考えておりますので、今後十分配慮していきたいと考えております。

委員の皆様、ほんとうに今回ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。副区長、それぞれ全く違うコメントいただいて、なんかすばらしいなど、江東区がますます繁栄することを祈念しまして、終わりたいと思います。どうもありがとうございます。

午後 0時 5分 閉会